

平成29年第1回理事会議事録

- 日 時：平成29年2月2日（木） 11:30～17:00
- 会 場：大阪大学微生物病研究所・第一会議室（本館二階）
- 出席者：堀口安彦 理事長，
川端重忠、川原一芳、桑野剛一、古西清司、白井睦訓、関水和本久、
中川一路、西川禎一、林 哲也、松下 治、山口博之 各理事
大原直也、三宅眞実 両監事
赤池孝章 第90回総会長
オブザーバー：中谷智明（司法書士）
- 欠席者：大西 真、高井伸二、辻 孝雄、八木淳二 各理事

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）

堀口理事長より、以下の挨拶があった。本理事会も残すところ1年（計4回）となったが、引き続き宜しく願いたい。

II. 確認事項

前回理事会（平成28年第4回理事会）の議事録について、修正の要請はなく、確定した。

III. 総会報告

1) 第90回総会準備状況報告（赤池第90回総会長）

赤池第90回総会長より、資料に基づき、以下の開催内容に関する報告があった。一般演題数は400を越え、シンポジウムは29セッション、ワークショップは9セッションと、前回の総会とほぼ同じ規模で開催できることになった。中西印刷とやり取りをし、プログラム集の校正を行っている。会員への発送は、2/20前後を予定している。電子版は、それよりも早めにアップロードする予定である。詳細はWebサイトで確認して欲しい。総会前日に東北大学片平キャンパス片平さくらホールで理事会（11:30-16:00）と評議委員会（16:00-18:00）を開催する予定である。会務総会は、例年通り中日3/20の13:50-16:00に開催する予定である。事前登録のメ切りは明日となっているが、1週間程度延長する予定である。ミキサーは、学生500円とした。特別講演は、一部招待講演者の変更が生じたが、ほぼ確定した（トランプショックの影響で開催ギリギリまで様子を見る必要のある演者がいるため）。日葉連からの寄付は、前年度から50万円減額となり、350万円になった。

2) 第91回総会準備状況報告（林 第91回総会長）

林理事より、資料に基づき、以下の開催概要に関する報告があった。総会事務委託業者が「エー・イー企画」に決まった。申請をしたので、福岡市から20-30万円の支援が受けられるかもしれない。3月の理事会で、より詳しい準備状況を報告したい。日韓の取り扱いをどのようにしたら良いのか分からない。誰が開催するのか、責任体制も含め早く決めて欲しい。後で審議事項として審議する（堀口理事長）。堀口理事長から以下の発言があった。前回の総会で非会員の登録者は169名であった。その内訳は、41名が大学、66名が企業、13名が公的な研究所、7名が民間の研究所、27名が病院、残りの数名は行政機関であった。企業（サンスター、スミスクライン、花王など）の非会員登録者には、ダイレクトメールで賛助会員への加入を呼びかける方向で、西川担当理事と早瀬氏と検討を進めている。今年度の総会参加者についても、非会員登録者の内訳について、調査をして欲しい。

IV. 報告事項

1) 総務部会報告

- ① 総務・渉外担当報告（川端理事）：川端理事より資料に基づき以下の報告があった。平成28年度12月31日現在、2,259名[名誉会員40名(+2名)、正会員1,810名(-91名)、学生会員449名(-65名)、賛助会員36社(-4社)]。平成28年度総会時(2,443名)に比べる184名の減となっている。
- ② 広報・HP作成担当報告（中川理事）：中川理事より資料に基づき、ホームページ上からの入会手続きと英語版ホームページの作成に関して以下の報告があった。ホームページからクレジットカードでの入会ができるように、早瀬氏にそのフォームの作成を行ってもらっている。入会申し込みページは記載内容をすべて記入しないと、カード決済のページには進めないようになっている。現行では、「正会員」と「学生

会員」の区分のみだが、会員数を増やすためにも「海外会員」区分の追加の是非と、その区分を追加する場合の会費(額)について審議して欲しい。その他情報の記載欄には、会員の職種が「医師」、「歯科医師」、「その他」となっている。医師と歯科医がメインではないので、職種区分を検討する必要がある。また勤務先情報も、「大学」、「病院」、「開業」となっているが、「大学関係」、「研究所関係」、「企業」、「その他」への変更についても検討して欲しい。クレジットカードについては、VISA など対応可能なカード会社を明記するようにする。また現在、英語版ホームページの作成に向け準備を進めている。一から作成すると費用がかなり高額となる。そこで中西印刷とも相談し、現行の日本語版ホームページを利用する(コンテンツなど)ことで、おおよそ25万円程度で作成が可能であることが分かった(日本語版のデザインを踏襲するのであれば20万円程度)。一方、作成にあたり幾つかの問題点があることも判明した。日本語広告をそのまま掲載できないのでどのようにするのか。英語版の広告を載せる際には、新たに掲載料金を徴収するのか。現行のホームページの形態では、更新作業が煩雑であり、更新手数料金が現行の倍(日本語ホームページ30万円と合わせ)、年間約60万円かかってしまう。また英語版では邦文記事を英訳する必要があり、チェックも含め手間がかかる。中西印刷の担当者からは、もっと更新しやすい形態、例えばWordPressのようなものを導入することで、更新料金を可能な限り抑えてはどうか、との提案もあった(更新作業がワープロ感覚で可能でありWordPressはサーバー利用料金以外の年間更新料金が発生しない)。日本語と英語版どちらもWordPressに変更し、新たに作成するとなると(例えばASMのようなサイト)、70-150万円程度の費用がかかる。一時的に費用はかかるが、その後の更新料は大幅に抑えられる。法人化の議論もあるので、更新あるいは新たに作成するにしても、いつ行うのかタイミングも含め審議が必要である。一方、英語版のみ、現行の日本語版ホームページを参考に作成するのであれば、次回の理事会にたたき台を提出することは可能である。非公開となっているが英語版Facebook ページは出来上がっているので、それを利用することも可能である。

- ③ **選挙関連担当報告(関水理事)**：八木理事の代わりに関水理事より資料に基づき以下の報告があった。2017年度選挙スケジュールは、3月下旬＝有権者名簿を学会HPにて公開、4月21日(金)まで＝異議申し立ての受付、5月中旬＝評議員選挙の投票用紙発送(正確には、有権者宛に会員番号とパスワードを通知。6月中旬＝投票締切、7月上旬＝評議員投票用紙開票(選挙担当理事、事務局、教育ビジネスサポート担当者にて。)、7月上旬～中旬＝当選者への通知および就任諾否伺い、7月中旬～下旬(当選者からの返答期限は1週間程度)＝諾否返答期限、8月上旬＝理事選挙投票用紙発送(正確には、会員番号とパスワードを通知。新評議員名簿も同封)、9月中旬＝理事投票締切、9月下旬＝理事投票用紙開票、10月上旬＝理事長選挙および監事・評議員議長選挙、10月上旬～中旬＝理事長決定、11月上旬～中旬＝監事・評議員会議長・評議員会副議長選挙開票、なっている。Web選挙となるが、初期費用は1,499,200円、二回目以降は、1,175,200円となる予定である。それに伴い、Web選挙の準備を進める(早瀬氏)。

2) 財務部会報告

- ① **会費・会計担当報告(関水理事)**：関水理事より資料に基づき以下の報告があった。まだ会計監査は済んでいない。2月8日に実施する予定である。決算については、次回の理事会で審議することになる。会計監査を進めるにあたり、2008年以降支部から徴収した支部会費154,815円が、支部に分配されていないことが判明した。現時点ではどの支部から集めたものなのか分からず支部に分配できないので、来年度平成29年度の会費収入として、決算書に加える予定である。
- ② **賛助会員担当報告(西川理事)**：西川理事より資料に基づき以下の報告があった。平成29年1月に1社増え(江崎グリコ)、計37社となった。年度替りに協賛を取り下げる企業もあるので、総数は変動する可能性がある。

3) 学術部会

- ① **学術支援・評価担当報告(林理事)**：林理事より以下の報告があった。例年通り、仙台の学会でもポスター発表一般演題から、優秀発表賞を選出する。審査委員の数が足りない場合には、理事にも手伝ってもらいたい。
- ② **学術企画分野**
1. **シンポジウム等企画担当報告(西川理事)**：西川理事から以下の報告があった。今回は、初めての試みとして、一般演題の中からワークショップ演題を全て選抜した。赤池総会長のご配慮で選抜のカテゴリーを事前に絞り込み、選抜を希望するか否かを事前に選んでもらっていたので、委員会での選抜は効率よくスムーズに行うことができた。一方、一般演題からの100%選抜の是非については、今回の総会での発表内容を吟味し、参加者の意見も踏まえ来年の総会の参考にしたい。シンポジウ

ム企画委員会のみでシンポジウムを企画するのはその内容に偏りを生じさせる要因になりうるので、一般会員からのシンポジウム企画を反映させることになっている。前回の理事会でも話題に上がっていたが、企画調整委員会でのとりまとめと企画の募集は、並行して実施しても良いのではないかと考えている。来年の総会に向けては、シンポジウム企画委員にそのような流れになることもありうるので、良い企画があれば早めに出して欲しいとアナウンスをした。

2. **バイオセーフティー担当報告（大西理事）**：※欠席・報告内容無し

3. **ICD 制度協議会等担当報告（桑野理事）**：特になし。

③ 学術交流分野

1. **日本微生物学連盟担当報告（川原理事）**：特になし。

2. **日本学術会議担当報告（川原理事）**：特になし。

3. **日本医学会連合担当報告（辻理事）**：※欠席・報告内容無し

4. **予防接種推進専門協議会担当報告（大西理事）**：※欠席・報告内容無し

4) 教育部会報告

① **次世代教育・人材育成担当報告（松下理事）**：松下理事より資料に基づき以下の報告があった。第10回細菌学若手コロッセウムが、2016年7月31日～8月2日に、富田治芳教授(群馬大学)[実務者 久留島潤助教]を代表世話人として、草津セミナーハウスで開催された。参加者は57名(うち学生22名)。協賛金が、630,000円集まったので、学会に223,258円を返納することになった。

また、松下理事より資料に基づき無料出張講演に関して以下の報告があった。昨年度は、野田公俊教授(千葉大学)の無料出張講演が、21校、受講生数が3,018名となった。15万円の予算措置を行っている。2017年度も無料出張講演を野田教授に行ってもらおう予定だが、今後、退職などを踏まえ野田教授への依存度を減らしていく必要があるだろうと考えている。無料出張講演など教育への貢献度に関するアンケートは、秋頃をめどに実施する予定である。

② **教育資源発掘・保存担当（松下理事）**：松下理事より以下の報告があった。DVDの追加印刷は、100部とする。

5) 出版部会報告

① **学会誌担当報告（川端理事）**：※欠席・報告内容無し

② **M I 誌担当報告（川端理事）**：川端理事より以下の報告があった。2016年の投稿論文数は116件であり、現在11本がreviseの状態になっている。アクセプト率は33%であった。2015年の投稿論文数は114件であり、アクセプト率は26%であった。

③ **用語集担当報告（川原理事）**：八木理事に代わり、川原理事より資料に基づき以下の報告があった。Web版の概要が、英和編約9,200項目、和英編約10,400項目、便覧I細菌名約4,500項目(*新データ)、便覧II真菌名約350項目、便覧III動物ウイルス名約490項目、便覧IV寄生虫名約220項目、便覧V主要培地一覧約120項目(表)、となる旨、南山堂から連絡があった。概算見積もり額は、データ出力費やデータ整備費は約400,000～450,000円、Webページ作成費用は見積もり中(かなり高額になる可能性あり)。これらについては八木理事とも確認をとり、次回の理事会に諮りたい。また川原理事より、日本医学会の「医学用語の置き換えの提案：臨床の現場で当事者(患者や家族)への精神的ダメージが大きく尊厳を損なう恐れのある言葉“奇形およびこの言葉を含む医学用語”の他と言葉絵の置き換え」に関して、資料に基づき以下の報告があった。特段反対する理由はないので、その旨対応すると返答した。日本細菌学会の用語集も、この置き換えに従い修正する予定である。

6) 国際交流部会報告

① **IUMS 等担当報告（古西理事）**：古西理事より以下の報告があった。2017年7月17日～21日にかけてシンガポールでIUMSが開催される予定である。1月10日と1月24日に、2回に渡り演題登録のメ切について日本細菌学会の全会員へアナウンスを行った。演題メ切は2月28日とさらに延長された。会員の意識はあまり盛り上がっていないようだ。

② **日韓微生物等担当報告（桑野理事）**：桑野理事より以下の報告があった。林理事からも発言があったが、次回総会時の日韓の責任者をどのようにするのか、審議事項で審議し決める必要がある。

7) 社会交流部会

- ①利益相反担当報告（辻 理事）：※欠席・報告内容無し
- ②倫理担当報告（白井理事）：特になし。

V. 審議事項

- 1) **法人化について（議事進行：川端理事）**：川端理事より、日本細菌学会の現在の有り様に合わせた仮の定款案(第2版)に基づき中谷司法書士から説明があり、問題点および疑問点を解消すべく、理事との質疑応答を行った。
- 2) **第92回総会長について**：堀口理事長より以下の説明があった。庶務理事の川端理事とも相談し、また地域性なども考慮し、北海道大学の山口理事を第92回日本細菌学会の総会長に候補者として評議員会に推薦したい。法人化後の総会となりうるので、その場合には総会の時期を3月から動かすことができない(決算年度が始まって3ヶ月以内に総会を開催しなくてはならないので)。また雪があり、足元が悪い場合もありうる。山口理事から以下の発言があった。堀口理事長から話があった際、受けるべきか迷った。一方、札幌で開催するのはIUMS(2011年)の開催以来となる。北海道の細菌学研究的活性化の一助になるとも考えた。またこのような歴史ある大きな学会をやることで、学会のあり方などを自分なりにしっかり考える機会としたい。恐らく頼りなく見えるかと思うが、やるからには若い会員が参加してよかったと思えるような学会開催に向け努力したい。審議の結果、山口理事を第92回日本細菌学会の総会長候補者として評議員会に諮ることが決まった。堀口理事長から以下の追加発言があった。評議員会で承認された際には、次期理事会のシンポジウム企画調整委員と連携し、より良い学会開催を目指して欲しい。
- 3) **平成29年度予算案について**：関水理事から資料に基づき以下の説明があった。収入について) 会費収入は、2017年度から支部会費がなくなり、全て本部の収入になったことから、会費収入は688,350円の増となった。会計監査を進めるにあたり、2008年以降支部から徴収した支部会費154,815円(仮受金)が、支部に分配されていないことが判明した。現時点ではどの支部から集めたものなのか分からず支部に分配できないので、来年度(平成29年度)の会費収入として、決算書に加える予定である。支出について) 動画DVDの作成が完成したので教育活動費は、432,000円と減となった。今年は日本で開催されないで日韓国際シンポジウムは予算化されていない。支部支出費は、前回の理事会で決定した金額1,200,000円を計上した。広告関係費は、英語ホームページの作成費見積額(260,000円)を加え、760,000円と増額となった。選挙管理経費は、今年は役員選挙の年なので、電子選挙見積額(1,550,000円)を加え、1600,000円と増額となった。旅費は、2016年の実績を踏まえ、1,700,000円に増額した。予備費は、Pubmed契約を加え、48,000円と増額となった。総括だが、単年度収支として、-206,550円の赤字予算となっている。主たる原因は、役員選挙である。もし役員選挙がなければ、135万円の黒字決算となる。審議の結果、次回理事会で再審議することとなった。また、以下のことも決まった。ホームページの更新については、WordPressで更新するというので、具体的な見積もりを再度中西印刷に作ってもらい、改めて3月の理事会に諮ることになった。経緯を説明した上で、仮受金をどのようにするのか、評議員会に諮ることになった。MIの予算が65-70万程度に抑えられることも踏まえ、予算案を組み直すことになった。
- 4) **選挙細則の改訂について**：堀口理事長から資料に基づき以下の説明があった。1月20日〆切ということで選挙細則改定案に関するパブリックコメントをホームページ上で募集した。その結果、2名の評議員から以下の条項に関する意見があった。
第3条4項「投票は無記名で選挙人の所属する支部の被選挙人の中から3名、全支部の被選挙人の中から3名を選び、所定の方法によって投票する」：文言が分かり難く、支部と全支部から二種類の評議員を選ぶように理解できる。また”支部と全支部の投票は同じ被選挙人への投票は可能でしょうか”との質問があった。支部別全国選出の区別なく選出することがより明確に分かるように(例えば支部から3名、所属支部以外から3名といったように)、細則を修正したい。さらに”支部3票と全支部3票を単純に合計することに違和感がある。つまり、それぞれ重み(単位?)が違うものを足し算して良いのでしょうか”との質問があった。定員が支部に割り振られるだけで、支部票の重みが、全国票の重みに比べて軽くなるようなことはない(1票の重みは変わらない)。所属支部に3票入れる権利があるということである。その一方で、支部3名、全支部3名という数値はほぼ意味がない。例えば北海道支部にほとんど票が入らなくなる、といったことをなくすために、必ず所属支部の人は、所属支部の人へ投票が入るようにという配慮だけのもの

のである。もう少し説明付けが必要とするならば、自身の所属支部被選挙人に3名とすると、それ以外の支部に1名ずつ投票するというのが、おそらくもっとも合理的である。地域性を担保するために、票がバラケなければならぬということ、所属支部に3名を与えたが、それだけではなく、自身の所属支部以外の各支部に1票ずつ投票することが良いのではないか。このように選挙を行うとなると、例えば、北海道支部の人をよく知らない、といったことが出てくるかもしれないが、全国区から顔が見える人を選ぶといった趣旨からはまた外れてしまう。審議の結果、この条項案は誤解のないように修正した上で、原案通りとすることが決まった(評議員会で決議)。

- 5) **2018年の日韓国際微生物学シンポジウムについて**：堀口理事長から資料に基づき以下の説明があった。桑野理事からも提案があったように、次期日韓シンポジウムの日本側代表を決めなくてはならない。1991年の第1回から2016年の第13回までの日韓は、主に担当理事が代表責任者を務めているので(事務局が把握または過去の議事録から：第1回金政・中村、第2回大西、第3回大西、第4回大西、第5回大西、第6回本田、第7回平山、第8回太田、第9回平山、第10回神谷、第11回桑野、第12回桑野、第13回桑野*敬称略/1991. 10. 17 韓国での開催から実施/担当理事は下線)、担当理事から選ぶのが良いかと思う。これまで桑野理事が第11回から代表を務めているので、次回も(あと1年)桑野理事にお願いしたい。その一方で次の日韓担当理事への引き継ぎをしっかりと行う必要がある。そのためにも次期理事会からも担当理事を出してもらいように働きかけたい。具体的には、次回の第91回総会の中で実施する日韓シンポジウムに関しては、総会長の林理事、西川理事担当のシンポジウム企画調整委員会と桑野理事の間で調整・練ったプログラムを、林理事から次期理事会へ申し送るのが良いかと思う。審議の結果、林理事が次回日韓シンポジウムの代表世話人を務めることになった。また今年度は引き続き桑野理事がサポートし、来年1月からは次期理事会に引き継ぐことになった。
- 6) **会員区分について**：堀口理事長から以下の説明があった。海外会員の区分を作る際、会費をどうするかということについて審議したい。正会員は10,000円となっている。海外会員に何らかのメリットを付与するとなるとMI誌の購読しかない。MI誌のオンラインと冊子購読料金が、17,193円。学会員は、オンラインのみ購読料金が、7,427円。(いずれも2017/1/23のレート。) 事前に関水理事と川端理事と相談した結果、5,000円の金額を提案したい。審議の結果、海外会員の会費を5,000円とすることが決まった。ホームページ上にその旨記載する。
- 7) **第11回細菌学若手コロッセウムの開催について**：松下理事より資料に基づき以下の説明があった。第11回若手コロッセウムワーキンググループ代表世話人 野村暢彦教授(筑波大学)より正式な助成(助成額30万円)の依頼があった。例年通りの開催概要となっている(平成29年8月2日~4日、筑波山江戸屋)。審議の結果、例年通り助成することが認められた。
- 8) **評議員会議事次第(案)、会務総会議事次第(案)について**
本年の案が提示され、承認された。
- 9) **その他**：
法人化に伴う支部の存廃について：堀口理事長から以下の説明があった。法人化に伴う支部の存廃について、いままで理事会で議論したことはないので、評議員会等への法人化の正式提案を前に支部の存続について議論して欲しい。予算案からわかるように、これから支部を本部から支援していくのはきわめて困難である。法人化後も本部との関わりを持つといった時に、東北支部や九州支部の活動は、細菌学会以外の人が入っている。そのような下部組織を法人として抱えるのは定款上も無理がある。よって自助努力で支部を存続していかなければならない。ただし、そうすると支部に参加するために学会員になっている人が退会する可能性があるが、それは仕方がない。審議の結果、定款案には支部の事項を残さないことになった(支部の存廃に関しては支部に委ねる*名称の使用は今後議論する)。

法人化後の選挙の立候補について：川端理事から以下の説明があった。原案でいくと代議員を30名に一人となる。そのやり方を今まで通りやるのか、立候補をしてきた会員をどのように扱うのか、議論する必要がある(選挙細則として作らなければならない)。今年中に細則に盛り込み、12月にはパブリックコメントを募集したい。本日の理事会と、3月にも理事会があるので、作っていかなければならない。法人化後の

立候補者については、従来の被選挙人名簿から辞退した人を除き立候補者とする、という案も視野に入れて検討することが決まった。

微生物生態学会との共催シンポジウムの開催について：堀口理事長から早瀬氏へ以下の発言があった。細菌学会非会員で微生物生態学会の会員のシンポジストは旅費参加費を細菌学会で賄うことを赤池総会長に伝えて欲しい。

VI. その他

平成 29 年第 2 回理事会について：

開催日時=2017 年 3 月 18 日（土） 11 時 30 分～16 時 00 分

会 場：東北大学片平キャンパス片平さくらホール 会議室 C・D

第 90 回総会について

会期：2017 年 3 月 19 日（日）～21 日（火）

会場：仙台国際センター 展示棟

VII. 閉会